

保安林標識、井戸、電力計、電柱、配電支柱、消火器格納箱、防火水槽がある。

トイレは夏場に大量の蚊が発生したり、工作物が設置されている場所も植物が著しく繁茂したりする等、季節によって利用の障害となる場合がある。

また、注意板、解説板には色褪せたものもあり、消火器格納箱や防火水槽は黒ずんで汚れが目立っている。

#### ◎保存管理の考え方

建築物、工作物ともに便益施設については、名勝の景観との調和を図りつつ、衛生面においても適切に維持管理し、更新は現在地において行うものとする。

また、今後も設置が必要な工作物について、き損しているものは適切に復旧し、経年変化で当初の状態が損なわれているものは、交換を図る等の配慮も必要である。

### ii 音無山

○構成要素：工作物

◇管理者：三重県ほか

#### ●現状と課題

自動車専用の新二見トンネルと歩行者用の旧二見トンネルがあるが、旧二見トンネルは老朽化が進み、注意板が設置されている。旧二見トンネル東側には街路灯、電柱、配電支柱、電話柱がある。

また、音無山麓の民家が接するあたりに落石防護柵が設置されている。

#### ◎保存管理の考え方

便益施設のトンネルは現状の維持的整備に留め、更新は現在地において行うものとする。その他、工作物についても現状の維持に努め、き損した場合には適切に復旧・整備する。

また、落石防護柵等麓住民等の安全のための工作物の設置等については、周辺環境及び景観に最大限の配慮をしつつ整備、維持を行う。

## 5 賓日館地区

### (1) 基本的な考え方

この地区は神宮参拝の賓客休憩・宿泊施設として利用された賓日館で構成され、名勝二見浦の近代の歩みを示す場所と言える。賓日館の建築物は三重県の有形文化財（建造物）に指定され、敷地内には回遊式の庭園も現存し、近代和風建築の粋を今によく伝えているため、厳格な保存管理を行うこととする。地区内に存するものは原則現状の維持に努め、き損した場合には本来の価値を損なうことの無いよう適切に復旧・整備する。

### (2) 本質的価値を構成する要素ごとの考え方

#### ① 自然的要素

##### i 植生

○構成要素：賓日館

◇管理者：伊勢市

## ●現状と課題

庭園を中心に、二見興玉神社参道沿いの生垣、賓日館の玄関先に様々な樹木が植樹されているが、枯損したものも見られる。

### ◎保存管理の考え方

樹木は原則現状維持に務め、剪定・枝打ち等の適切な管理を行うとともに、枯損した場合には、同一樹種による更新に努める。

## ② 歴史的要素

### i 賓日館

○構成要素：建築物、工作物、庭園

◇管理者：伊勢市

## ●現状と課題

神宮の崇敬団体として明治19年（1886）に設立された神苑会が、津藩の砲台跡地に建設した神宮参拝の賓客休憩・宿泊施設であり、明治20年（1887）2月19日に開館し、明治44年（1911）に旅館二見館を営む若松家に売却後、別館として利用された。

昭和2年（1927）頃から改修が行われ、昭和10年（1935）には大広間棟が整備された。建物は、玄関棟、東棟、西棟、大広間棟、渡廊下棟及び土蔵で構成され、敷地内には二見の海を借景とする庭園もあり、明治期から昭和戦前期にかけての和風建築の技術や意匠の進展をよく示している。

平成11年（1999）まで多くの要人を迎え、平成15年（2003）に二見町に寄贈され、資料館として開館し、写真・絵葉書・調度品や郷土の画家・中村左洲の作品を展示している。近代和風建築の好例として平成16年（2004）3月17日に三重県の有形文化財（建造物）に指定されている。

建物の老朽化に伴い、様々な修繕が発生しており、耐震の面からも抜本的な対策を講じる必要に迫られている。

庭園に関しては、作庭者は詳らかでないものの、随所に庭師の細かい配慮の見られる回遊式庭園であり、庭内には門、塀、砂利道、蹲踞、沓脱石、大正天皇腰掛け石、石橋、枯池、井筒、排水路、飛び石、伽藍石、春日灯籠、山灯籠、雪見型灯籠、石塔、石畳、ベンチ、外灯、砲台跡がある。

また、庭外にも雪見型灯籠、春日灯籠がある。

### ◎保存管理の考え方

賓日館は、二見浦の近代化の象徴ともいえる記念碑的な建造物であるので、その荘厳な美しさを継承していけるよう維持管理するとともに、耐震等も考慮した適切な修理事業を実施していく必要がある。三重県指定有形文化財であることから、別途、三重県有形文化財としての保存管理計画を策定し、維持管理や修理事業について詳細を定める。

また、庭園その他工作物についても、三重県有形文化財としての保存管理計画の対象として建築物との調和を図り、原則現状の維持に努め、き損した場合には